

宗田理さんからのメッセージ

いまでも忘れられない本

ぼくの中学時代は戦争中だった。一年生の夏休みの宿題は軍馬の餌である干し草40キロを提出することであった。

これを夏休み中に集めるのは容易ではない。毎朝早く起きて草探しである。ぼくの住んでいた町から自転車で10分も走ると海の堤防に出られる。その松林の下で草はいくらでも刈ることができた。

早々と草刈りを終えると草を道にひろげて乾燥させた。その間暇があるので松林のかげで読書をした。海の風が快く吹いてきて、読書には絶好の環境であった。ぼくはそこで何冊も本を読んだ。といっても勉強ではない。日本の小説から外国の小説まで、手当たりしだいに読んだ。いわゆる乱読である。

読書に飽きると海で泳いだ。いま思い出しても、楽しい時代だった。それ以来、ぼくの読書好きは止まらなくなった。しかし、やがて戦争が激しくなり、ぼくも死ななくてはならないかと覚悟するようになった。そんなとき、石坂洋次郎の『若い人』を読み、青春とはこういうものかと知った。それまで国のために死ぬことだけを考えていたぼくは、こういう生き方もあるのだと羨ましく思った。本は何冊も読んだけれどこんなに心を動かされたのは、はじめての経験であった。

宗田理

Profile 《プロフィール》

東京生まれ、名古屋市在住。シナリオライター、編集者を経て、『未知海域』で作家デビュー。『ぼくらの奇跡の七日間』『ぼくらの修学旅行』などの「ぼくら」シリーズは多くの中高生から支持を得ている。『ぼくらの七日間戦争』など、映画化された作品も多数。



100冊に選ばれた本

➡ 「ぼくら」シリーズ(35ページ)